



現在の庄原中学校

庄原中学校を 全面改築へ

To reconstruction full-scale in Shobara Junior High School



現状

庄 原中学校は、昭和43年に旧庄原市内7校が統合し、昭和44年に校舎を新築し、昭和45年から現在の校舎を使用しています。

当時は、生徒数1000人余り、学級数30余りの大規模校として充実した設備がありました。しかし、約40年を経過した現在の施設は、老朽化の問題に加え、施設内にも死角となる部分が多いなど、生徒指導面や安全面で、

課題があります。さらに、少子・高齢化、情報化、国際化、価値観の多様化への対応など、時代の要請を踏まえた施設が求められています。

また、構造的な面も、耐震診断や耐力調査で、いずれも国の求める基準を満たしていないため、早急な対応が必要になりました。

市は昨年度、「庄原中学校改築事業基本方針」を策定し、今後、関係者から意見を聞きながら、平成25年度の事業完了を目指して、全面改築を行います。

取り組み状況

は じめに、地域住民・PTA・教職員など関係者の意見や要望を改築事業に反映するため「庄原市立庄原中学校改築事業の実施に伴う関係者の意見を聴く会」を設置し、3月18日に第1回目の会議を開催しました。

この会で、「今後の学校教育機能をより充実させるためには、どのような施設が必要か」という視点で今後も協議を重ね、目指すべき学校施設の姿を明らかにしていく予定です。

また、3月30日には、より優れた設計者による創造力や技術力、豊富な経験などを期待して、指名型設計プロポーザル方式(※1)による設計者選定公開ヒアリングを開催しました。多くの市民の方が見学する中、5社が企画案を説明した後、選定委員会の厳正な審



プロポーザル方式による設計者選定公開ヒアリングの様子

※1
「プロポーザル方式」とは、技術提案書の提出を求め、それを審査し、最も優れた提案を行った者と契約をする方式です。

発注者と設計者が、具体的な設計を共同して進められるため、発注者が要求する質の高い建築設計が可能になります。

査を経て、(株)村田相互設計を設計者に決定しました。

- 主な工事スケジュール予定**
- 平成22年度
基本設計・地質調査・実施設計・校舎棟建築(一部)
 - 平成23年度
校舎棟建築・関連外構工事
 - 平成24年度
屋内運動場・武道場・付属建物建築・関連外構工事・既存校舎棟解体撤去・グランド整備
 - 平成25年度
既存屋内運動場・武道場解体撤去・敷地整備工事

庄原中学校施設整備基本方針

一 基本理念(要旨)

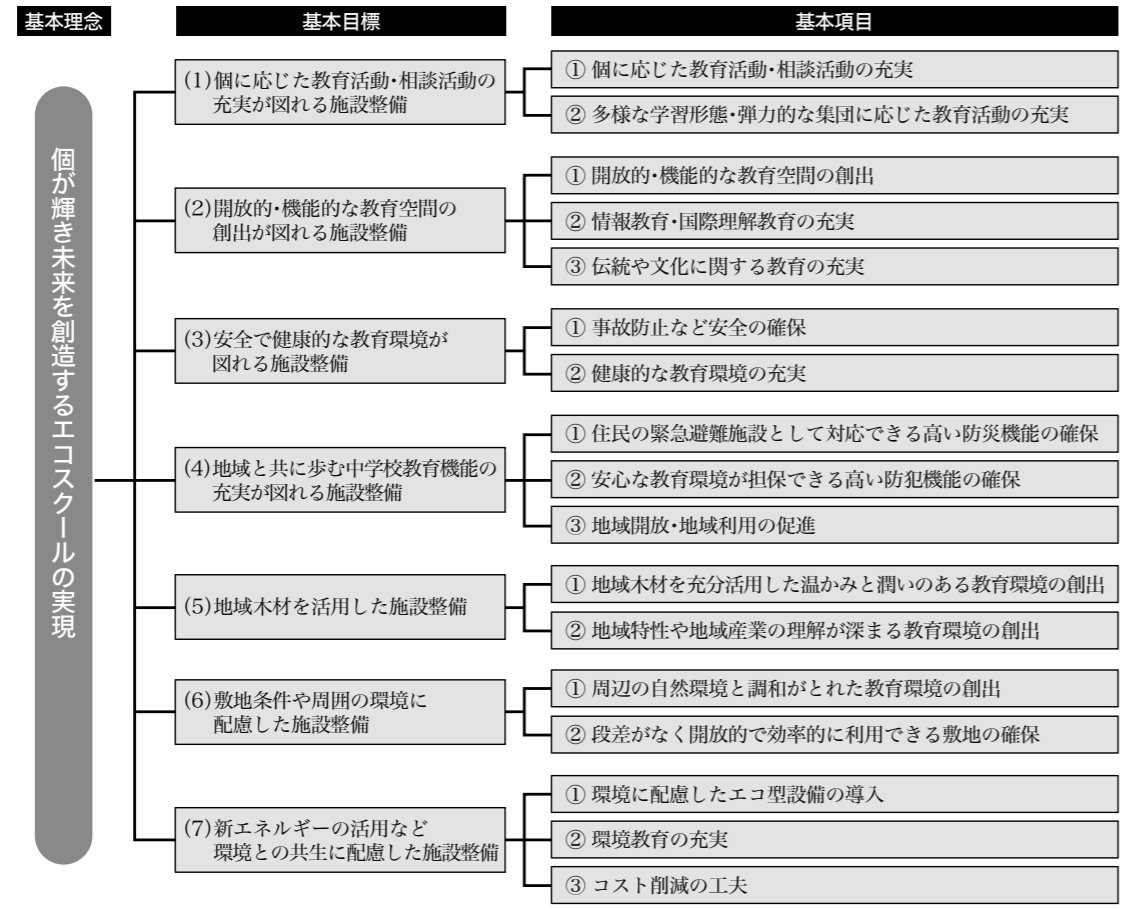
学 校施設は、生徒・教職員が1日の昼間の大半を過ごすところであり、まず安心安全で快適に過ごせるものでなくてはなりません。さらに、当該学校の学校教育をいかに充実していくかの観点で整備しなくてはなりません。

現在の施設は、耐震性の不足や、施設の老朽化に加え、棟数が多く死角となる個所が敷地に多数あり、教育指導が充分に行き渡らない施設環境であるなどの課題があります。

改築にあたっては、十分な耐震性を有し、防犯機能も備えた安心安全な施設にするとともに、開放的で機能的な教育空間を創出します。また、地域木材や新エネルギーの活用などに配慮し、生活の場として快適に過ごせる施設整備を図ります。

市教育委員会では、庄原中学校施設整備における基本理念を「個が輝き未来を創造するエコスクールの実現」とし、その実現に向け、7つの基本目標を設定しました。また、基本目標に沿って基本項目を設定し、具体的な施設整備計画を立案します。

庄原中学校施設整備基本構想図



教室で授業を受ける中学生



次代を担い将来の社会を創っていく中学生